

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号  
実用新案登録第3151863号  
(U3151863)

(45) 発行日 平成21年7月9日(2009.7.9)

(24) 登録日 平成21年6月17日(2009.6.17)

(51) Int.Cl. F 1  
A 4 3 C 11/24 (2006.01) A 4 3 C 11/24

評価書の請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 実願2009-2715 (U2009-2715)  
(22) 出願日 平成21年4月27日(2009.4.27)(73) 実用新案権者 509120861  
株式会社ファーストスタッフ  
東京都港区東新橋2丁目18番3号  
(73) 実用新案権者 509082031  
大平 衣里子  
東京都練馬区大泉学園町6-1-29  
(74) 代理人 100101845  
弁理士 佐藤 明子  
(74) 代理人 100147784  
弁理士 塩谷 享子  
(72) 考案者 大平 衣里子  
東京都練馬区大泉学園町6-1-29

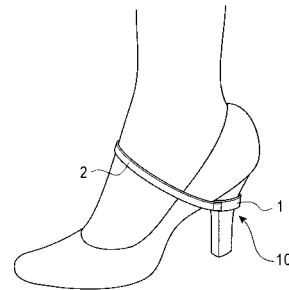
(54) 【考案の名称】 パンプス用ホルダー

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】パンプスのインソール部分を足裏にしっかり固定できるとともに、見た目にもファッション性が高く、アクセサリ感覚で着用することが出来る、パンプス用ホルダーを提供する。

【解決手段】パンプス用ホルダー10を、パンプスのヒールの外周に沿って嵌めるヒール用バンド1と、ヒール用バンド1に取り付けた足の甲部または足首部を押え止めるためのストラップ2とで構成する。ヒールに嵌めたヒール用バンド1を支点として、甲の部分あるいは足首の部分をストラップ2により押え止めるので、安定してパンプスを足裏に保持することができる。

【選択図】 図1



**【実用新案登録請求の範囲】****【請求項 1】**

パンプスのヒールの外周に沿って嵌めるヒール用バンドと、ヒール用バンドに取り付けた足の甲部または足首部を押え止めるためのストラップと、を備えた、パンプス用ホルダー

**【請求項 2】**

ヒール用バンドは、輪状のバンドである、請求項 1 に記載のパンプス用ホルダー。

**【請求項 3】**

ヒール用バンドは、少なくとも一部が弾性体で構成された輪状のバンドである、請求項 2 に記載のパンプス用ホルダー。

**【請求項 4】**

ヒール用バンドは、両端部に互いに係止可能な係止部を設けて、ヒールの外周に沿って巻き回して係止するバンドである、請求項 1 に記載のパンプス用ホルダー。

**【請求項 5】**

ストラップは、足の甲部に左右に渡して押え止めるストラップであって、長さを調整できる部材をとりつけた、請求項 1 に記載のパンプス用ホルダー。

**【請求項 6】**

ストラップは、足の甲部に左右に渡して押え止めるストラップであって、少なくとも一部を弾性体で構成した、請求項 1 に記載のパンプス用ホルダー。

**【請求項 7】**

ストラップは、足首の外周に沿って嵌める足首用ストラップと、上端を足首用ストラップに取り付け下端をヒール用バンドに取り付けた支持用ストラップとからなる、請求項 1 に記載のパンプス用ホルダー。

**【考案の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本考案は、パンプスを履いて歩行するときに、踵がパンプスの踵部から浮かないようにパンプスを足裏に保持するために着用するパンプス用ホルダーに関するものである。

**【背景技術】****【0002】**

パンプスとは、履き口である甲の部分を大きく開けてあり、紐や留め具が付いておらず、基本的にはつま先や踵部分が覆われ、約 3 センチ以上のヒールが付いた婦人用の靴をいう。パンプスは、ヒールが高く紐や留め具が付いていないので、パンプスを履いて歩行しているときには体重がつま先部分にかかり、パンプス内部で足がつま先方向に移動しやすい。さらに、足のサイズにぴったりのパンプスを購入しても、使用しているうちにサイズが多少広がってくることが多い。このように、パンプスはその構造上、歩行中に踵とパンプスの踵部との間に多少のすきまが生じやすく、足を踏み出す度に足裏（特に踵部）がパンプスの底から浮くなど、歩きづらい状態になりがちである。

**【0003】**

このような問題を解決するために、パンプスが足から離脱しないように固定するためのベルトが特許文献 1～3 に提案されている。これらの文献に開示されているベルトは、伸縮可能な素材で作成されるかあるいはサイズを調整できる締付部を備えた輪状のベルトであって、パンプスの下部土踏まず部分から足の甲にかけて巻回して着用するものである。このようなベルトは現在市販もされている。

**【0004】**

そこで、本願考案者は、このようなベルトを実際に着用して歩いてみた。その結果、ベルトの幅が広くないものについては、歩いているうちにベルトがずれてしまうという問題が判明した。一方、ベルトの幅をかなり広めにすれば、ベルトが歩いているうちにずれるという問題はあまり生じない一方、外観が美しいとはいえず、ファッション性という観点からはユーザーを引き付ける魅力に欠けるのではないかと思われた。

10

20

30

40

50

## 【先行技術文献】

## 【特許文献】

## 【0005】

【特許文献1】実開平5 - 015810号公報

【特許文献2】実用新案登録第3110644号公報

【特許文献3】特開2006 - 230816号公報

## 【考案の概要】

## 【考案が解決しようとする課題】

## 【0006】

本考案は、パンプスのインソール部分を足裏にしっかり固定できるとともに、見た目にもファッション性が高く、アクセサリ感覚で着用することが出来る、パンプス用ホルダーを提供することを目的とする。

10

## 【課題を解決するための手段】

## 【0007】

本考案によるパンプス用ホルダーは、パンプスのヒールの外周に沿って嵌めるヒール用バンドと、ヒール用バンドに取り付けた足の甲部または足首部を押え止めるためのストラップとで構成されている。

## 【0008】

ヒール用バンドは、輪状のバンドとすることが出来る。少なくとも一部が弾性体で構成された輪状のバンドでもよい。

20

## 【0009】

また、ヒール用バンドは、両端部に互いに係止可能な係止部を設けて、ヒールの外周に沿って巻き回して係止するバンドでもよい。

## 【0010】

ストラップは、足の甲部に左右に渡して押え止めるストラップであって、長さを調整できる部材をとりつけたストラップとすることが出来る。また、ストラップは、足の甲部に左右に渡して押え止めるストラップであって、少なくとも一部を弾性体で構成するようにしてもよい。

## 【0011】

さらに、ストラップは、足首の外周に沿って嵌める足首用ストラップと、上端を足首用ストラップに取り付け下端をヒール用バンドに取り付けた支持用ストラップとから構成するようにしてもよい。

30

## 【考案の効果】

## 【0012】

本考案によれば、ヒールに嵌めたヒール用バンドを支点として、甲の部分あるいは足首の部分をストラップにより押え止めるので、安定してパンプスを足裏に保持することができる。そして、足に負担をかけることなく、歩行時にパンプスのインソールから踵部が浮いたりする歩きづらい状態を解消できる。また、本考案によるパンプス用ホルダーは、構成がシンプルであると共に、様々な材質で作成することが出来、装飾物を付加することも容易なので、ファッション性の高い製品とすることが可能である。

40

## 【図面の簡単な説明】

## 【0013】

【図1】第1の実施の形態によるパンプス用ホルダーを着用した状態を示す図である。

【図2】(a)、(b)、(c)、はそれぞれ、第1の実施の形態の実施例を示す斜視図である。

【図3】(a)、(b)は、それぞれ第2の実施の形態によるパンプス用ホルダーを着用した状態を示す図である。

【図4】(a)は、図3(a)に示すパンプス用ホルダーを平面に置いた状態で示す図、(b)は図3(a)に示すパンプス用ホルダーを着用した状態で示す図である。

【図5】(a)は、図4(a)に示すパンプス用ホルダーを平面に置いた状態で示す図、

50

(b)は図4(a)に示すパンプス用ホルダーを着用した状態で示す図である。

【考案を実施するための最良の形態】

【0014】

本考案によるパンプス用ホルダーは、ヒール用バンドをパンプスのヒールの外周に沿って嵌め、ヒール用バンドに取り付けられている足の甲部または足首部を押え止めるためのストラップで甲または足首の部分とヒール部分とが離れないように保持することにより、足裏にパンプスを保持するものである。

【0015】

ヒール用バンドは、輪状でもよいし、両端部に互いに係止可能な係止部を設けた一本のバンドであって、ヒールの外周に沿って巻き回して係止することによってヒールに嵌めるようにしてもよい。また、輪状のヒール用バンドは、少なくとも一部を弾性体で構成するようにしてもよい。

【0016】

ヒール用バンドに取り付けられたストラップは、足の甲部あるいは足首部にフィットさせるために、少なくとも一部を弾性体で構成してもよいし、長さを調整するためのバックル等の長さ調整部材を取り付けてもよい。

<第1の実施の形態>

【0017】

図1は、第1の実施の形態によるパンプス用ホルダー10を着用した状態を示す図、図2(a)(b)(c)は、それぞれ、第1の実施の形態によるパンプス用ホルダー10の実施例10a、実施例10b及び実施例10cを示す斜視図である。

【0018】

図1に示すように、パンプス用ホルダー10の基本的な形態は、パンプスのヒールの外周に沿って嵌めるヒール用バンド1と、ヒール用バンド1に取り付けられて、甲の部分に左右に渡される長さが調整可能なストラップ2とで構成されている。

【0019】

ヒール用バンド1は、ヒールの下部からヒールに通して嵌めるようにして着用する。ヒール用バンド1は、輪状であってもよいし、両端部に掛止可能な係止部(例えば、スナップ、フック、着脱自在な接着テープ)を取り付けて巻き回すようにしてヒールに嵌めてもよい。

【0020】

ヒール用バンド1が輪状である場合、少なくとも一部を弾性体で構成すれば、ヒールの回りに締め付けられ、嵌めたときに落下しないので着用しやすい。しかしながら、パンプス用ホルダー1は、ヒール用バンド1とストラップ2とで足に保持されるため、着用してしまえば、ヒール用バンド1が必ずしも弾性体によってぴったりとヒールの外周を締め付けていなくても落下することはなく機能を果たすことができる。なお、ヒール用バンド1は、細いものから幅広のものまで、具体的には2mm程度から50mm程度まで、様々な幅で作成可能であり、材料も、ゴムをはじめ、布、ニット、合成樹脂、皮革や人工皮革、金属(チェーン状のものを含む)やこれらによる組み合わせが使用できる。

【0021】

ストラップ2は、ヒール用バンド1に取り付けられ、ストラップ2が足の甲部を左右に渡るように着用する。ストラップ2はヒール用バンド1を起点として甲が浮かないように保持しなければならないため、甲に沿うように丁度良い長さに調整する必要がある。そのために、ストラップ2を、例えば、2本のストラップで構成し、それぞれの一端をヒール用バンド1に取り付け、他端の先端同士に、互いに嵌め合うテープアジャスタ(テープバックル)を取り付けて、テープアジャスタに通すストラップ2の長さを調整可能にしてもよいし、穴の位置を調整することにより長さを調整できる美錠(ベルトなどによく使われる金具で、基本的にはカン類にピンが付いたもの)をストラップ2の一方の端に取り付け、もう一方のストラップ2にはベルト穴を設けて長さを調整するようにしてもよい。また、2本のカン類を一方のストラップ2の先端に取り付けもう一方のストラップ2をカン類

10

20

30

40

50

に通して長さを調整してもよいし、複数設けたボタン留めや脱着自在の接着テープを一定の幅に取り付けて、長さを調整可能にしてもよい。さらに、ヒール用バンド 1 に取り付けられたストラップ 2 の少なくとも一部を弾性体で構成するなどして、弾性体の収縮により足の甲を締め付けるようにしてもよい。

【0022】

このように、ストラップ 2 は、様々な形態をとることが可能なので、材料も、布、ニット、合成樹脂、皮革や人工皮革、ゴム、場合によっては留め金で長さが調整可能なチェーンでもよい。

【0023】

図 2 ( a ) は、第 1 の実施の形態によるパンプス用ホルダーの実施例 1 0 a を示した斜視図である。図 2 ( a ) に示すように、パンプス用ホルダー 1 0 a は、輪状のゴムバンドからなるヒール用バンド 1 a と、一端がヒール用バンド 1 a に取り付けられ、それぞれの他端の先端に、互いに嵌め合うテープアジャスタ 2 2 a が取り付けられている布製ストラップ 2 a からなる 2 本のストラップとから構成されている。テープアジャスタ 2 2 a は、例えば、一方の布製ストラップ 2 a がテープアジャスタ 2 2 a の紐通し部を通して折り返すようになっており、布製ストラップ 2 a を引くことによりテープアジャスタ 2 2 a の位置を移動できるので、甲部分に当たる長さの調整が可能になっている。なお、ストラップ 2 a の先端に布製やビーズ製の花を取付けたり、途中にイミテーションファーのポンポンを取り付けるなどして、アクセサリ的な要素を高めることが出来る。

10

【0024】

図 2 ( b ) は、第 1 の実施の形態によるパンプス用ホルダーの実施例 1 0 b を示した斜視図である。図 2 ( b ) に示すように、パンプス用ホルダー 1 0 b は、金属製又はプラスチック製の小さなビーズに伸縮性を有する繊維あるいは糸を組み合わせて帯状の輪に構成したヒール用バンド 1 b と、やや大きめの金属製又はプラスチック製のビーズに伸縮性を有する糸を通したストラップ 2 b で構成されており、ストラップ 2 b の両端は、ヒール用バンド 1 b に固定されている。この実施例によるパンプス用ホルダー 1 0 b では、よりアクセサリ的な要素が強まっている。

20

【0025】

図 2 ( c ) は、第 1 の実施の形態によるパンプス用ホルダーの実施例 1 0 c を示した斜視図である。図 2 ( c ) に示すように、パンプス用ホルダー 1 0 c は、輪状のゴムからなるヒール用バンド 1 c と、輪状のゴムからなるストラップ 2 c とを、組み合わせたものであり、第 1 の実施の形態中で、最もシンプルな構成である。図 2 ( c ) に示している実施例では、ヒール用バンド 1 c とストラップ 2 c とは、一方の輪を他方の輪にくぐらせるようにして組み合わせているだけである。このようにしても、ヒール用バンド 1 c とストラップ 2 c のゴムの幅が極端に太くなければ、十分に足にフィットしパンプスを足裏に固定することが出来る。なお、ヒール用バンド 1 c とストラップ 2 との交差部分が移動しないように、ストラップ 2 のヒール用バンド 1 c との交差部分近くを縫い合わせるなどしてもよいし、ヒール用バンド 1 c とストラップ 2 を共に小型リングに通すことによって、小型リングを介してヒール用バンド 1 c とストラップ 2 とを組み合わせてもよい。

30

< 第 2 の実施の形態 >

40

【0026】

図 3 ( a ) は、第 2 の実施の形態によるパンプス用ホルダー 1 1 を着用した状態を示す図、図 3 ( b ) は、第 2 の実施の形態によるパンプス用ホルダー 1 2 を着用した状態を示す図、図 4 ( a ) ( b ) は、第 2 の実施の形態によるパンプス用ホルダー 1 1 をそれぞれ平面に置いた状態と着用した状態で示す図、図 4 ( a ) ( b ) は、第 2 の実施の形態によるパンプス用ホルダー 1 2 をそれぞれ平面に置いた状態と着用した状態で示す図である。

【0027】

図 3 ( a ) ( b ) に示すように、第 2 の実施の形態によるパンプス用ホルダー 1 1 又は 1 2 は、パンプスのヒールの外周に沿って嵌めるヒール用バンド 1 と、足首の外周に沿って嵌める足首用ストラップ 2 3 と、上端を足首用ストラップ 2 3 に取り付け下端をヒール

50

用バンド 1 に取り付けした支持用ストラップ 2 4 とを備えている。

【 0 0 2 8 】

第 2 の実施の形態におけるヒール用バンド 1 については、第 1 の実施の形態の欄に記載したヒール用バンド 1 についての記載がそのまま該当するので、ここでは記載は省略する。

【 0 0 2 9 】

一方、第 2 の実施の形態においては、足首の外周に沿って嵌める足首用ストラップ 2 3 と、上端を足首用ストラップ 2 3 に取り付け下端をヒール用バンド 1 に取り付けした支持用ストラップ 2 4 とにより、ヒール用バンド 1 を支点として、足裏にパンプスを保持する。

【 0 0 3 0 】

支持用ストラップ 2 4 の足首用ストラップ 2 3 及びヒール用バンド 1 への取付け方法については、例えば、図 3 ( a ) 及び図 4 ( a ) ( b ) に示すように、支持用ストラップ 2 4 の上端を、足首用ストラップ 2 3 の踵の上部に当たる部分に取り付けることが出来る。この場合、支持用ストラップ 2 4 を直接足首用ストラップ 2 3 に縫製などにより取り付けてもよいが、図 4 ( a ) ( b ) に示すように、リング 3 0 を介して取り付けてもよいし、足首用ストラップ 2 3 と支持用ストラップ 2 4 の双方をバックルに通すことにより交差させるようにして取り付けてもよい。また、支持用ストラップ 2 4 のヒール用バンド 1 への取付け方法は、ヒール用バンド 1 の幅や材質により、ヒール用バンド 1 へ縫製などにより直接取り付けたり、下端を輪状に作成してヒール用バンド 1 を通すようにするなど、様々な方法が考えられる。

【 0 0 3 1 】

支持用ストラップ 2 4 の足首用ストラップ 2 3 及びヒール用バンド 1 への取付け方法については、さらに、図 3 ( b ) 及び図 5 ( a ) ( b ) に示すように、支持用ストラップ 2 4 の上端を、足首用ストラップ 2 3 の踝の上部に当たる部分あるいは前面に取り付けることが出来る。この場合、支持用ストラップ 2 4 を直接足首用ストラップ 2 3 に縫製などにより取り付けてもよいし、支持用ストラップ 2 4 の上端を輪状にして、足首用ストラップ 2 3 を通すようにしてもよい。また、図 5 ( a ) ( b ) に示す支持用ストラップ 2 4 は 2 本であるが、3 本あるいは 4 本であってもよい。

【 0 0 3 2 】

なお、支持用ストラップ 2 4 は踵部あるいは踝部に沿ってヒール用バンド 1 と足首用ストラップ 2 3 とを支持するので、少なくとも一部が弾性体で構成されている方がしっかりと足のカーブに沿って支持することが出来る。

【 0 0 3 3 】

一方、足首用ストラップ 2 3 は、図 4 及び図 5 に示した実施の形態では、一端にバックル 3 1 が取り付けられ、他端をバックル 3 1 に通すことにより、足首に巻き回したときに丁度よい長さに調整出来るようにしているが、第 1 の実施の形態においてストラップ 2 の長さの調整手段と同様に、様々な調整部材を取り付けることが出来るし、少なくとも一部が弾性体である輪状であってもよい。

【 0 0 3 4 】

足首用ストラップ 2 3 は、様々な形態をとることが可能なので、材料も、布、ニット、合成樹脂、皮革や人工皮革、ゴム、場合によっては留め金で長さが調整可能なチェーンでもよい。また、第 1 の実施の形態と同様に、様々な装飾的な材料を用いたりあるいは取り付けたりすることにより、アクセサリ的な要素を高めることが出来る。

【 符号の説明 】

【 0 0 3 5 】

- 1、1 a、1 b、1 c ヒール用バンド
- 2、2 a、2 b、2 c ストラップ
- 1 0、1 0 a、1 0 b、1 0 c 第 1 の実施の形態によるパンプス用ホルダー
- 1 1、1 2 第 2 の実施の形態によるパンプス用ホルダー
- 2 3 足首用ストラップ

10

20

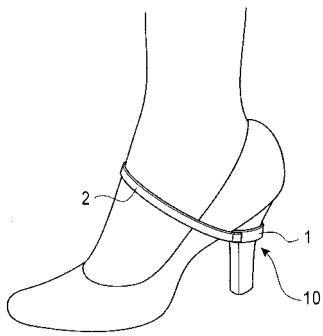
30

40

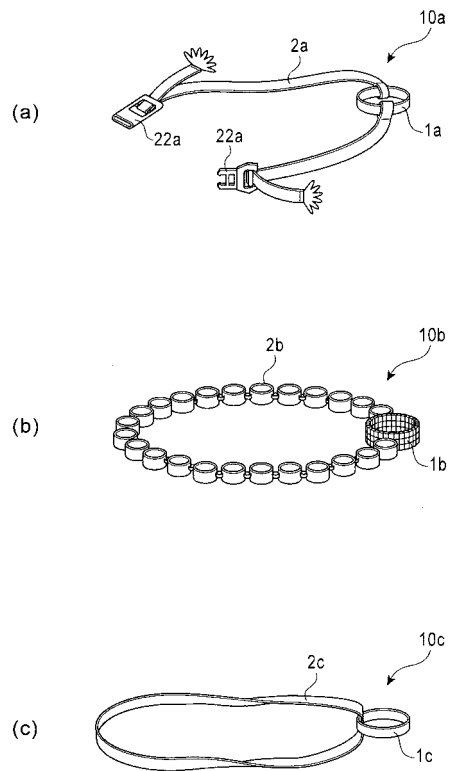
50

2 4 支持用ストラップ

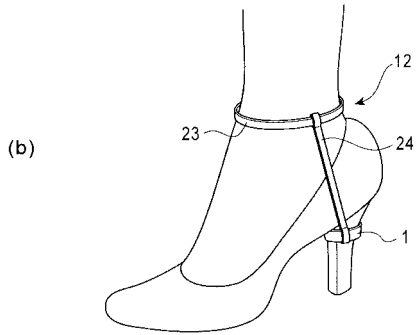
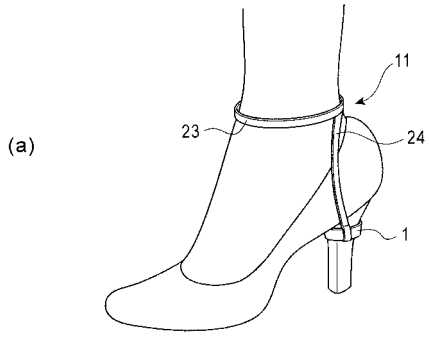
【図 1】



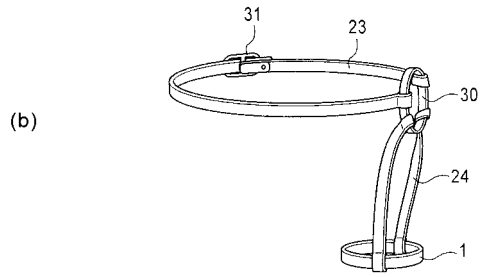
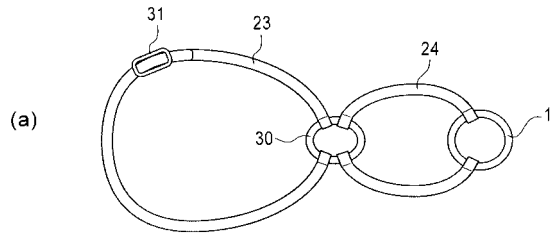
【図 2】



【 図 3 】



【 図 4 】



【 図 5 】

